

区分別科目	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連		時間数 (法定)	33 (26)
特定行為名	(A) 抗けいれん剤の臨時の投与 (B) 抗精神病薬の臨時の投与 (C) 抗不安薬の臨時の投与			
担当指導者	村井 望 (医師) 堀川 文彦 (医師) 荻野 英治 (医師) 前田 匡輝 (医師) 合田 亮平 (医師) 三木 健児 (医師) 山西 正芳 (医師) 碓井 太雄 (医師) 自閑 昌彦 (医師) 福井 道彦 (医師)			
学ぶべき事項	(共通) 精神及び神経症状に係る薬剤投与関連の基礎知識	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神・神経系の局所解剖 2. 神経学的主要症候 3. 精神医学的主要症候 4. 主要な神経疾患と病態生理 5. 主要な精神疾患と病態生理 6. 主要な神経疾患のフィジカルアセスメント 7. 主要な精神疾患の面接所見 8. 神経学的検査 9. 心理・精神機能検査 10. 精神・神経系の臨床薬理 (副作用、耐性と依存性を含む) 		
	(A) 抗けいれん剤の臨時の投与	<ol style="list-style-type: none"> 1. けいれんの原因・病態生理 2. けいれんの症状・診断 3. 抗けいれん剤の種類と臨床薬理 4. 各種抗けいれん剤の適応と使用方法 5. 各種抗けいれん剤の副作用 6. 病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む) 7. 抗けいれん剤の投与のリスク (有害事象とその対策等) 		
	(B) 抗精神病薬の臨時の投与	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統合失調症の原因・病態生理 2. 統合失調症の症状・診断 3. 抗精神病薬の種類と臨床薬理 4. 各種抗精神病薬の適応と使用方法 5. 各種抗精神病薬の副作用 6. 病態に応じた抗精神病薬の投与とその判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む) 7. 抗精神病薬の投与のリスク (有害事象とその対策等) 		
	(C) 抗不安薬の臨時の投与	<ol style="list-style-type: none"> 1. 不安障害の原因・病態生理 2. 不安障害の症状・診断 3. 抗不安薬の種類と臨床薬理 4. 各種抗不安薬の適応と使用方法 5. 各種抗不安薬の副作用 6. 病態に応じた抗不安薬の投与の判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む) 7. 抗不安薬の投与のリスク (有害事象とその対策等) 		

研修概要	(共通) 精神及び神経症状に係る薬剤投与関連の基礎知識	精神及び神経症状のある患者に対し、適切に状態を評価し、安全に薬剤を投与できる基本的な知識を得る。
	(A) 抗けいれん剤の臨時的投与	医師の指示の下、手順書により、身体所見（発熱の程度、頭痛や嘔吐の有無、発作の様子等）及び既往の有無等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、抗けいれん剤を投与する。
	(B) 抗精神病薬の臨時的投与	医師の指示の下、手順書により、身体所見（興奮状態の程度や継続時間、せん妄の有無等）等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、抗精神病薬を投与する。
	(C) 抗不安薬の臨時的投与	医師の指示の下、手順書により、身体所見（不安の程度や継続時間等）等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、抗不安薬を投与する。
到達目標	1. 医師の指示の下、手順書により、身体所見、食事摂取量等及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、抗けいれん剤の臨時的投与ができるようになる。 2. 医師の指示の下、手順書により、身体所見、食事摂取量等及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、抗精神病薬の臨時的投与が行えるようになる。 3. 医師の指示の下、手順書により、身体所見、食事摂取量等及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、抗不安薬の臨時的投与が行えるようになる。 4. 手順書案を作成し、再評価、修正できる能力を養う。 5. 医師、歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否を判断するために必要な知識を養う。 6. 実施、報告の一連の流れが適切に行える。	
評価方法	講義：eラーニングの受講及び講義確認テスト	
	演習：ペーパーシミュレーションによるグループワークを評価表に基づいて評価	
	実習：評価表（Mini-CEX）を用いた観察評価	
	試験：eラーニング上で筆記試験を実施	
研修内訳	講義（28時間）	視聴時間 45分＋講義確認テスト 15分
	演習（4時間）	視聴時間（イントロ）5分＋グループワーク 45分＋視聴時間（解説）10分 ※eラーニング教材を活用して講義室で行う
	実習	実習は指導者の下、●●病院で行い、各特定行為ごとに最低5症例経験する ※各行為の実習観察評価 0.25時間は5症例目の実習時間に含める。
	試験（1時間）	科目修了試験(筆記試験) 1時間 （共通）精神及び神経症状に係る薬剤投与関連の基礎知識 0.25時間 （A）抗けいれん剤の臨時的投与 0.25時間 （B）抗精神病薬の臨時的投与 0.25時間 （C）抗不安薬の臨時的投与 0.25時間

授業計画						
科目名	回	研修方法 /評価	授業 形態	学べき事項	担当指導者	
精神及び 神経症状 に係る薬 剤投与関 連	第1回	講義	放送	神経系の局所解剖	村井 望 堀川 文彦 荻野 英治 前田 匡輝 合田 亮平	
	第2回			（共通）精神及 び神経症状に係る 薬剤投与関連の		神経学的主要症候と神経学的検査、フィジカルアセスメント（1）
	第3回					神経学的主要症候と神経学的検査、フィジカルアセスメント（2）

	第4回			基礎知識	主要な神経疾患と病態生理、神経学的検査、神経系の臨床薬理 (1)	三木 健児 山西 正芳 碓井 太雄 自閑 昌彦 福井 道彦	
	第5回				主要な神経疾患と病態生理、神経学的検査、神経系の臨床薬理 (2)		
	第6回				主要な神経疾患と病態生理、神経学的検査、神経系の臨床薬理 (3)		
	第7回				主要な神経疾患と病態生理、神経学的検査、神経系の臨床薬理 (4)		
精神及び 神経症状に 係る薬剤投 与関連	第8回				精神系の局所解剖	村井 望 堀川 文彦 荻野 英治 前田 匡輝 合田 亮平 三木 健児 山西 正芳 碓井 太雄 自閑 昌彦 福井 道彦	
	第9回				精神医学的主要症候		
	第10回				主要な精神疾患と病態生理 (1)		
	第11回				主要な精神疾患と病態生理 (2)		
	第12回				主要な精神疾患の面接所見		
	第13回				心理・精神機能検査		
	第14回				精神系の臨床薬理 (副作用、耐性と依存性を含む)		
	第15回				(A) 抗けいれん剤 の臨時的投与		けいれんの原因・病態生理、症状・診断 (1)
	第16回	けいれんの原因・病態生理、症状・診断 (2)					
	第17回	抗けいれん剤の種類と臨床薬理、適応と使用方法、副作用、投与の判断基準、投与のリスク (有害事象とその対策等) (1)					
	第18回	抗けいれん剤の種類と臨床薬理、適応と使用方法、副作用、投与の判断基準、投与のリスク (有害事象とその対策等) (2)					
	第19回	演習	面接		抗けいれん剤の臨時的投与とその判断基準 (ペーパーシミュレーション) (1)		
	第20回				抗けいれん剤の臨時的投与とその判断基準 (ペーパーシミュレーション) (2)		
	第21回	講義	放送		(B) 抗精神病薬 の臨時的投与		統合失調症の原因・病態生理、症状・診断(1)
	第22回						統合失調症の原因・病態生理、症状・診断(2)
	第23回						抗精神病薬の種類と臨床薬理
	第24回						各種抗精神病薬の適応と使用方法、副作用
	第25回						病態に応じた抗精神病薬の投与とその判断基準、投与のリスク (有害事象とその対策等)
	第26回	演習	面接		病態に応じた抗精神病薬の投与とその判断基準 (ペーパーシミュレーション)		
	第27回	講義	放送		(C) 抗不安薬の 臨時的投与		不安障害の原因・病態生理、症状・診断 (1)
第28回	不安障害の原因・病態生理、症状・診断 (2)						
第29回	不安障害の原因・病態生理、症状・診断 (3)						
第30回	抗不安薬の種類と臨床薬理、適応と使用方法、副作用、投与のリスク (有害事象とその対策等) (1)						
第31回	抗不安薬の種類と臨床薬理、適応と使用方法、副作用、投与のリスク (有害事象とその対策等) (2)						
第32回	演習					面接	

				ション)	
--	--	--	--	------	--

授業計画					
科目名	回	研修方法 /評価	授業 形態	学ぶべき事項	担当指導者
精神及び 神経症状 に係る薬 剤投与関 連		実習	面接	抗けいれん剤の臨時の投与（見学） 抗精神病薬の臨時の投与（見学） 抗不安薬の臨時の投与（見学） ※患者に実技を行う前にモデル人形等を利用し、技術訓練を行う	村井 望 堀川 文彦 荻野 英治 前田 匡輝 合田 亮平 三木 健児 山西 正芳 碓井 太雄 自閑 昌彦 福井 道彦
	第 33 回			試験	

参考図書・資料等	全日病 S-QUE 提供の講義資料をダウンロード
備考	<ul style="list-style-type: none"> * e ラーニングにおける講義は、各自のパソコンで自宅等で視聴して差し支えない。 * 質問事項がある場合は、全日病 S-QUE が提供する掲示板を参照、あるいは指導者まで連絡、適宜指導を受ける。 * 指導者は、インターネットを通じて受講生の履修状況、設問の回答内容を確認し、必要に応じて指導、質疑に対する応答を行う（祝祭日を除く）。 * 1 回以上レポートの提出を行い、指導者から添削指導を受ける。レポートの内容は学習進度に応じて履修開始後、連絡される。 * 各行為の実習観察評価 0.25 時間は 5 症例目の実習時間に含める。 * 科目修了試験（筆記試験）は、各時間終了後に行われる確認テスト及び実習で学習した範囲より出題し、指導者の監督の下、本人確認を行った上で、講義室で集合して行う。 * 指導者は、必要に応じて受講者の理解を面接等で確認し、理解が不十分と判断された場合は、臨時の講義を行う。講義の場所は、講義室とする。